

1月21日(日)



ズワイガニをふんだんに使った

蟹ばっか丼

パック

1,280(税込)円



西田鮮魚店

☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

皆さんこんにちは！年男の長崎です！先週先輩方が今年の目標を書かれていたので、僕たち若手も今年の目標を書いていきます！

今年の目標は、「よく聴き、広く取り入れ、必ず実行する」です！昨年はこれができていたつもりでしたが、振り返ってみると、忙しい時どうしても視野が狭くなりがちで、自分のやり方はこれしかないんだ、と決めつけていた気がします…。今年はそれを反省して、一旦落ち着いて周りを見ることで、自らの視野と可能性を更に広げていきます！

仕入れのトラックを運転することが大好きな西浦です！僕はバス釣りが趣味で、よく師匠の奥原さんと釣りに行きますが、未だに50up釣ったことがありません!!昨年は惜しくも49.9cmという結果に終わってしまいました！悔しい!!と思ったり師匠は僕の横で毎年50cm以上の大物を涼しい顔で釣るんですよ…。僕の方が先に釣りを始めたのに!!今年は50upを必ず釣りたいと思います!!

さて、それでは内容に移ります。昨年も蟹を使った丼ぶりをさせていただいたところ、「美味しかった!と嬉しいお声をいただきました!更にお客様の期待に応えなければ!という思いでつくったのが今回の商品!「蟹ばっか丼」です!ズワイガニをふんだんに使った華やかな丼ぶりを、ぜひお楽しみください!

期待の若手 長崎大雅 & 西浦龍矢

『辰年 どうなってんねん』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



「辰年どうなってんねん。あと363日あるぞ。」

1月2日の夕方、私のラインに届いた。

能登の地震と羽田空港の事故のことに違いがない。

ことし年男の私だが、なんとも返信のしようがない。

『甲辰(きのえたつ)』は新しいことに挑戦して成功する。これまで準備してきたことが形になる。というとても縁起の良い年だと書かれているというのに。

実際、前回の『甲辰』は1964年、昭和39年。そう、東京オリンピックがあった年だ。まさに『昇り龍』の年だった。一方で6月、新潟大地震が起きてもいるのだが。私は12才。

干支の巡り合わせに、どれほどの意味があるとも思わないが、さすがに元日という特別な日に起きた、この地震には思いを巡らさずにいられない。人の営みに大自然が合わせてくれるわけなどないがそれにしても…。

そういえば、阪神淡路大震災があった1995年1月17日。

この日、会社行事として、スタッフと神社に詣で一年の安全と商売繁盛を祈願する予定だった。朝5時過ぎ、グラグラと大きな揺れ、驚いて目を覚ました。まさか、あれほどの災害とは思わず、ニュースを気にしながらも予定通り参拝した。時が進むにつれ、高速道路が真っ二つに折れ、いたるところで火の手が上がる惨状が、続々とテレビに映し出され息を呑んだ。よりによって、こんな日に…。

東日本大地震が起きた2011年3月11日は、末っ子の将の中学校の卒業式だった。さすがに揺れを感じはしなかったが、当然東北でも卒業式は行なわれていただろう。午後2時46分というから、式は終わり、余韻の中で時を過ごしていたにちがいない。しかし、卒業生たちにとっては特別な日が、かつてない規模の惨事があった日として記憶に刻まれる日になってしまった。

そして能登。

よりによって正月の一月一日。元旦。『よりによって元日に…』『まさか一月一日に…』。誰しもがそう思ったに違いない。能登では、めでたいはずの正月が、辛い思い出が甦る日になってしまった。

この正月、いつもの年のように始まった。

私と悦子は朝5時からの三次の『朝起き会』に出席した。結婚以来毎年続けている。子どもたちが家にいるころは、母も含めて全員参加だった。それから、帰りに丑寅神社に初詣で。6時すぎのこの時間は、ほぼ私たちだけ。おみくじは大吉。くじを引くと破魔矢。毎年、だいたい破魔矢だ。

家に帰り、私は分厚い朝刊を手にして二階の部屋へ、悦子は雑煮の仕度だ。30分ほどして「できたよ」。

二人つきりで、「あけましておめでとーございます」。

上野池に日が射し、吉兆を思わせる。静かな年明けだ。いつもお屠蘇がつくのだが今年はなかった。忘れていたのだから。私もあえて催促せず。

我が家の雑煮は、醤油のおすましに、ぶり、はまぐり、にんじん、ごぼう、せり。そうそう、たまご焼きも入れる。たまご焼き?と驚かれるが、これは母が嫁いできて祖母から教えられたらしい。悦子も、最初、驚いていた。母の雑煮を、そのまま再現してくれる悦子に感謝だ。子どもたちも、雑煮ばかりは、これではなくてはいけないみたいだ。餅は私が6個。悦子が1個。

子どもたちは登ころ三々五々帰って来た。

廿日市の『ゆめタウン』にある店だけが一月一日を営業する。さすがに、この日はパートスタッフの主婦の出勤は難しい。アルバイトの子たちも、一日くらいは家にいるようにとの親ごさんの強い要望があるらしく、なかなか揃わない。仕方ない。店長たちにムリを言うしかない。店長大集合の号令のもと、店長たちはみな、廿日市店の朝の仕込みに入る。もちろん社長も例外ではない。一月一日くらいは休みにすればいいのと思うのだが、テナント

である以上仕方ない。そんなこんなで、みんなが帰ってくるのは昼過ぎになる。

どこの家庭もそうだろうが、年末年始は主婦の八面六臂の大活躍を抜きには語れない。悦子も例外ではない。というか、『ミートファクトリーあんず』をオープンしたこの2年は、年末の29・30日の二日間、朝から晩まで『あんず』の店頭に立つ。食事もとれず、一日中立ちっぱなしだ。もちろん正月の準備もできない。よく、やるなあ。

大人、子ども合わせて17人の正月料理という名の宴会メニューを一人で用意しなければならぬ。夫はあてにできない。かろうじて、なまこを切るくらいはするのだが。そうそう、数の子の薄皮もとった。それにしても、みごとに段取り、手さばきだ。独身時代、勤めていた広島のカナダ館で伝説の店長と言われていただけのことはある。

昼前、広島から長男一家3人が着いた。私も下に降りる。続いて次女夫婦が。永末に住む長女一家4人が来て一挙に賑やかになった。なにしろ小4・小2の娘と年中の男の子だ。ただ、婿の学君は消防署の勤務で今日は来れない。明日来るそうだ。篤生夫婦が来てくれた。そして末っ子の将も食事前に着いた。三女一家は息子が生後3カ月で兵庫から来るので夕方になる。三女一家は仏間に折りたたみの机を並べて、ぎゅうぎゅうに座る。テーブルいっぱい料理。幸せな瞬間だ。

朝は2人だったが、昼は14人で「あけましておめでとーございます」。

そして、恒例のお年玉。悦子は、いまだに子ども5人と連れあいいにもお年玉を渡す。このときばかりは、みんな素直だ。もちろん孫たちにも。彼らは、おじちゃん、おばちゃんからももらうので休む間もない。名前を呼ばれて「はい」と答えるときの、気合の入っていること。すばらしい。

そうして、食事が始まるのだが、悦子が言う。とにかく、パン料理が無くなるのだそう。若い息子と婿たちの食欲はやっぱり違う。すぐに皿が空になる。ついこの前までは、こんなことはなかった。しかも、肉料理が増えたらしい。世代交代は、こんなところにも表れる。

ほどよく酔って、全員で宝蔵寺のお墓に参り、隣の丑寅神社に初詣でし、家に帰った。三女一家も来て、くつろいでいるとき、能登のニュースが入った。

午後4時10分だという。最大震度7、マグニチュード7.6の地震が能登半島を襲った。

あの日、あの時、能登でも流れていた。庄原の私たちと同じ、正月のゆっくりした時間が。里帰りした子や孫たちとのどかな時間が。それが能登では一瞬のうちに…。

3週間が経とうとしている。ひとり残された男性の言葉がテレビに流れた。「なんで自分がこんな目に…」やりきれない。これから、正月がくるたびに、のどかだった時間と一瞬のうちに地獄絵へと暗転した時間を思い出さなければいけない。やりきれない。

神龍がいたら…。



神龍

～7つの玉を集めると1つ願いが叶う、どんなことでも～